

ベースライン（アマモ場）

根拠1-1. （Before-Afterの比較）

三河湾では、1998～2004（平成10～16）年度に、中山水道航路整備事業から発生した浚渫土砂を用いて、干潟・浅場造成及び覆砂の環境改善事業が行われた。事業において、西浦地区、形原地区は干潟・浅場の造成、竹島地区は覆砂がされた。

西浦地区では下の航空写真に示すように、2006（平成18）年には造成により干潟、浅場が形成され、1996（平成8）年と地形が異なっていることが分かる。また、干潟の前面に干潟の地形変化を安定化するための島式の消波工の設置もされている。これらのことから、プロジェクト開始（1997（平成9）年）以前は地形的にアマモ場等が生育できる環境が当該地区になかったと推測される。



撮影年月日：1996（平成8）年1月12日  
干潟・浅場造成前



撮影年月日：2006（平成18）年5月25日  
干潟・浅場造成後

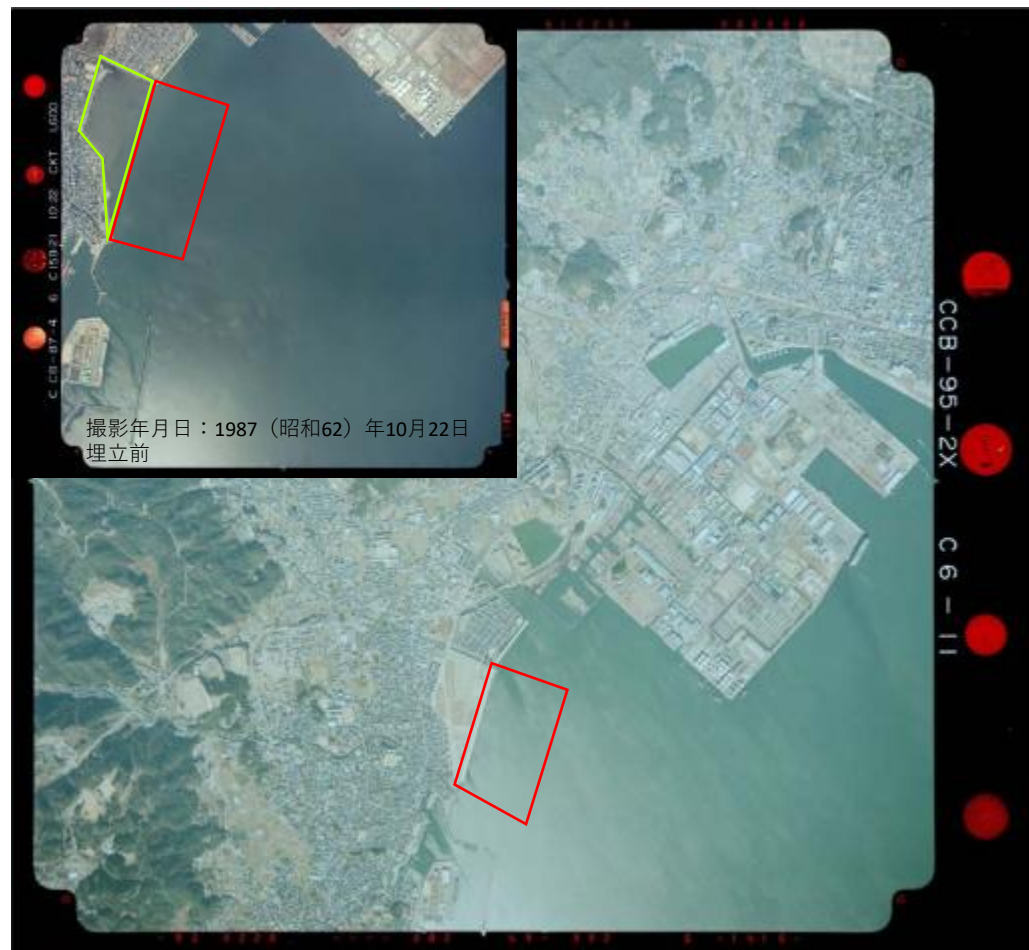
## ベースライン（アマモ場）

### 根拠1-2. （Before-Afterの比較）

形原地区では下の航空写真に示すように、2006（平成18）年には防波堤を設置したうえで干潟、浅場が形成されており、1996（平成8）年の造成前は浅場が全くなかったことが分かる。

さらに以前の1987（昭和52）年の航空写真では干潟・浅場造成箇所よりさらに内側も海となっていることから埋め立てされたことが分かり、周囲の地形が大きく変化している。

これらのことから、プロジェクト開始（1997（平成9）年）以前は地形的にアマモ場等が生育できる環境が当該地区になかったと推測される。



撮影年月日：1996（平成8）年1月12日  
干潟・浅場造成前



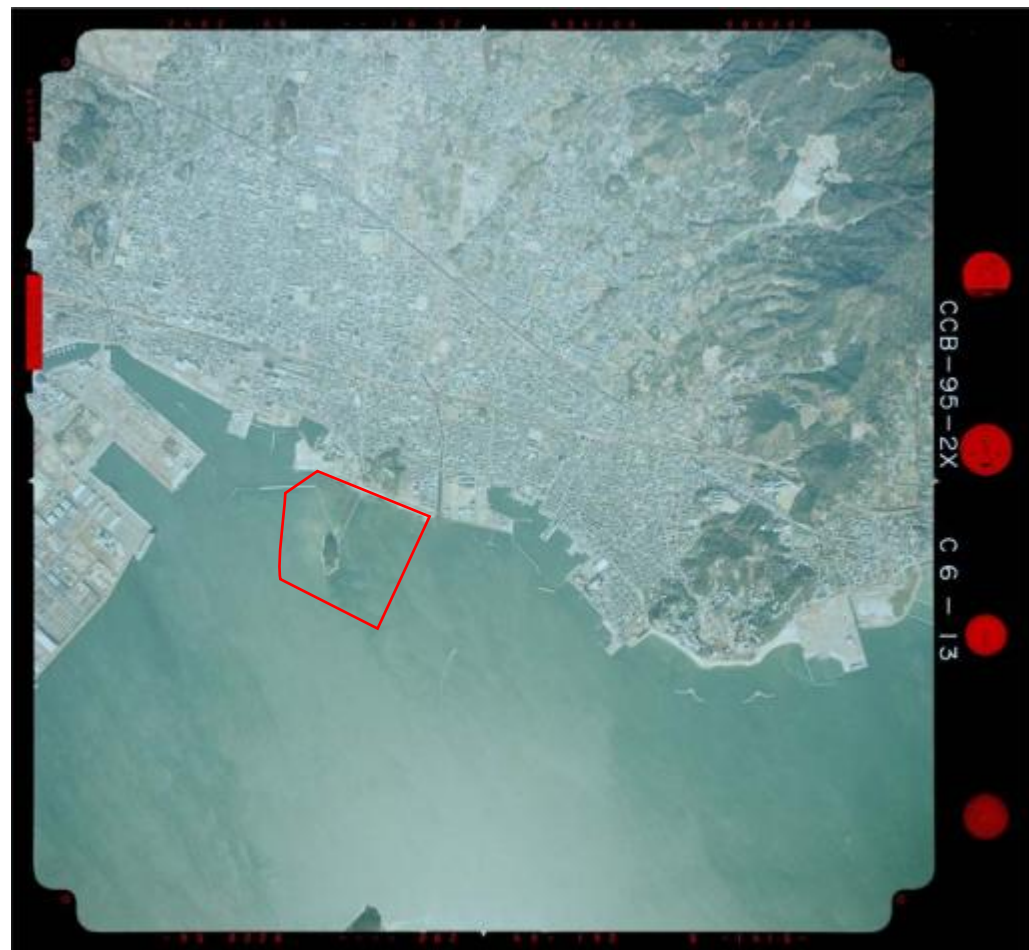
撮影年月日：2006（平成18）年5月25日  
干潟・浅場造成後



## ベースライン（アマモ場）

根拠1-3. （Before-Afterの比較）

竹島地区では下の航空写真に示すように1996（平成8）年の覆砂前に比べて2006（平成18）年が干潟、浅場が広く形成されている。1996（平成8）年では網等が確認でき、近年と異なる海域利用をしていたことが推察される。



撮影年月日：1996（平成8）年1月12日  
覆砂前

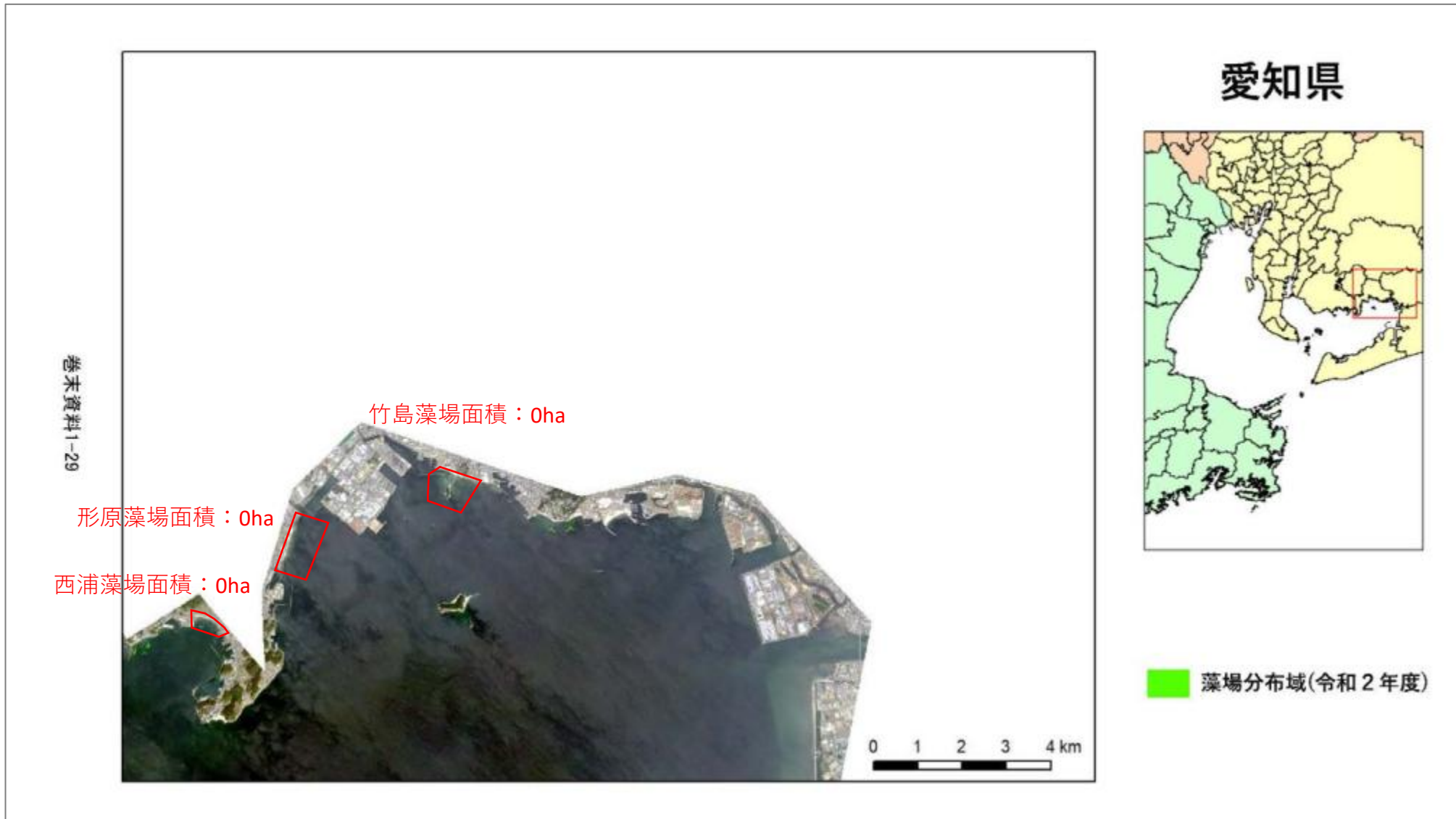


撮影年月日：2006（平成18）年5月25日  
覆砂後

根拠2.（Before-Afterの比較）

環境省による令和2～3年度 伊勢湾における藻場分布状況調査結果より、竹島地区では令和2年度時に藻場が確認されていない。

また、形原地区、西浦地区においても藻場は確認されていないことから、プロジェクトの活動区のアマモ・コアマモ場は近年急速に回復したことが推測される。





ベースライン（アマモ場）

根拠3. （Control-Impactの比較）

干出範囲全域では、毎年6月～7月にかけて重機による耕耘を行っている（申請対象期間においては2025年6月24日～27日、7月24日～25日に実施）。また、遊漁者による潮干狩りの場となっているとともに、漁業者による採貝漁場（腰マンガ）が行われており、通年で底質の変動が大きいことが推測される。そのため、耕耘範囲＝干出範囲全域にコアマモ場は見られない。

一方、コアマモ場が確認された非干出域は、アサリの漁獲量が急速に減少した2010年代ごろから操業を制限してきた。これにより底質の変動が抑制されるため、非干出域におけるコアマモ場の保全の役割を持ち、コアマモ場の回復が見られている。



凡例		面積(ha)
○	コアマモ（被度95％）	2.8368
○	コアマモ（被度50％）	1.7309
○	干潟 （2025年度耕耘範囲）	9.2335 ※項目4 参照

## ベースライン (アマモ場)

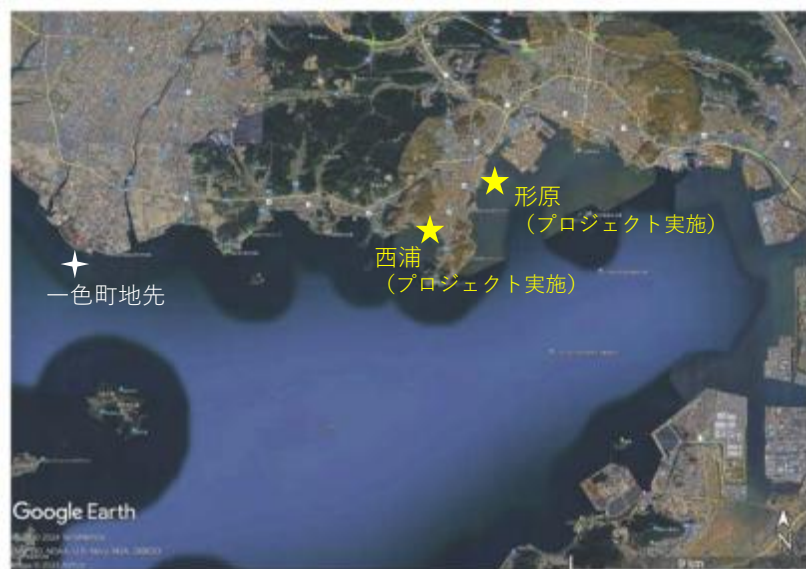
### 根拠 4. (Before-Afterの比較)

プロジェクト開始(1997年)前のベースライン根拠として、阿知波, 2009による三河湾におけるアマモ場面積の変動に関する論文において、1941年以前は三河湾で101.4平方キロメートルが確認されていたアマモ場が1995-1996年には3.4平方キロメートルと約96.6%が消失していることが示されている。また2000～2001年に三河湾に残る比較的大きなアマモ場は、一色町地先と田原市福江湾付近のみとされ、蒲郡はあげられてない。また、コアマモに関しては、蒲原ほか, 2015による論文において、三河湾全体における分布範囲は確認されていないとされている。

### 根拠 5. (Control-Impactの比較)

活動を行わなかった場合のアマモ場の推移の根拠として、阿知波, 2009による論文において2000～2001年に比較的大きなアマモ場として残るとされていた一色町地先について、2014年の航空写真(右上図)では、アマモ場等と推定される画像が確認できるが、申請対象期間内の2025年4月16日の航空写真(右下図)では確認できない。当該地域は保全活動は実施されておらず、三河湾沿岸部で盛んに行われている採貝漁業(潮干狩り、腰マンガ)や小型底引き網漁業(水流噴射式貝けた網)が行われている。このことから、アマモ・コアマモの保全活動や漁業との適切な管理を行わない場合、アマモ場等の消失が推定される。

根拠 1～5より蒲郡形原・西浦地区・竹島地区ではプロジェクトの活動により近年アマモ場・コアマモ場が回復・維持していると推察されるところから、ベースライン0とする。



2014年3月17日 一色町地先 航空写真 (GoogleEarthより)



2025年4月16日 一色町地先 航空写真 (GoogleEarthより)